

---

# 月の海の家

hisasi

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

月の海の家

### 【コード】

N3089I

### 【作者名】

hisasi

### 【あらすじ】

月の海にはおじいさんがいます。たった一人で海の家を開いているのです。ウサギも一緒ですよ。

(前書き)

月にある海が若者たちの遊び場でなくなって久しいこの頃、おじいさんは頑なに海の家を守っています。美味しいヤキソバ、こだわりのカキ氷、そして、月日を感じさせる海の家。

おばあさんの思い出も眠っているところ。

おじいさんの話をうかがいにいきましよう！

皆さんご存知でしょうか？月にも海があるって？え？知ってる。そうですか。でもこれは知らないでしょう。実は月の海にはすでに「海の家」があるんです。

### 月の海の家。

皆さんご存知のあの海の家ですよ。ヤキソバがあったり、カキ氷があったり、ビーチパラソルや浮き輪なんかを貸しているんです。誰がやってるんだって？

それはもちろんおじいさんですよ。ウサギだと思っていたでしょう？違ふんです。でも、ウサギはちゃんとして、おじいさんのペットになっていきます。でも、おじいさんはそのウサギを実は犬だと思い込んでいて、いつも「おい、ワンころ！」って呼ぶんですよ。ウサギの名前は「ラッキー」と言ふんです。

ウサギの名前をつけたのはおばあさんです。でも、今はいません。もう死んでしまっていたからです。だから、おじいさんはただ一人で海の家をやっているわけです、一応ラッキーもいますけどね。

さて、月の海のシーズンはやはり夏です。夏と言えば海、海と言えば月、月と言えば海、海と言えば海の家なので、夏になるとおじいさんも忙しくなるわけですが、なんでも最近の若者や家族連れは砂ばかりの月の海よりも、木星の目玉の嵐や、土星の大きな輪、そして、太陽の黒い点や滝のように噴出すフレアの方が刺激的だという理由でやってこなくなっていました。

砂乗り目当ての若者の関心はブームが過ぎると、すぐに木星の渦乗りや太陽のフレア乗りに取って代わられてしまい、今では子供でさえ月の海には遊びに来ない始末です。

しかし、おじいさんは月から離れようとはしませんでした。

何故か？それはおじいさんから聞いてください。なかなか頑固ですぐには口を利いてくれませんが、ヤキソバの味を褒めたら機嫌が

良くなって話してくれるかもしれません。

おじいさんが月の海の家を始めたのは今から40年前のやはり静かな夏の事です。もちろん、おばあちゃんも一緒でした。二人共若く希望もあり、とても一生懸命働きました。その頃、月の海はすごい人気で、地球からも遊んでいる人が見えるくらいでしたから、おじいさんもおばあさんも休む暇がありません。でも、それは二人の喜びであり、毎年来てくれる常連さんの笑顔を見ると疲れも癒されるのです。親子二世代、いえ、三世代、中には四世代で海に来てくれるお客さんもいて、それはそれは賑わっていたのです。

その時の話をする時、おじいさんはタバコをふかしながら目を細めて、もう二、三本しか無い歯を見せながら嬉しそうに笑うのです。人が来過ぎて月の海の砂がなくなっちゃうと思ったとか、ヤキソバが評判になってテレビの取材が着たとか、今太陽で活躍しているフレア乗りのおしめを取り替えた事があるとか。それは生き生きとしながら話してくれるのですが、おばあちゃんの話を持ち出すと途端に機嫌が悪くなってしまふので、気をつけたほうがいいですよ。

ああ、そうだ。カキ氷の事も忘れてはいけませんね。ここの氷は月の北極産でとても綺麗なんです。南極産に比べてきらめきと舌解けが激しいので、カキ氷にしているところは珍しいですが、これはおじいさんのこだわりなんです。上にかけるシロップも地球にあるのとは違ってとってもジューシーなんですよ。何しろ、月と地球では重力が違いますから、配合もおいそれとは打ち明けられない秘密だそうですが、おじいさんは得意になって教えてくれるんです。でも、これが食わせ物で、言われた通りに作っても同じ味がしないの色は一緒でも味がまったく違っちゃう。それを言つと、おじいさんは肩を揺らして舌を出すんだな。馬鹿にしてるんだけど、どこか憎めないから仕方なくカキ氷を頼んでしまつて寸法なんです。確かに、どこの海で食べるよりもここのカキ氷が一番美味しいんです。悔しいくらいに。

でも、そんなヤキソバもカキ氷ももうすぐ食べられなくなるかも

知れません。だって、それを作れるのはおじいさんしかいないのに、おじいさんは誰にも教えないのです。そして、おじいさんはおじいさんですから、とつても長く生きているんですけど、どうも、そんなに長く生きてはいけないようなんです。

おじいさんは月の海の家から静かな海を見ながら、ラッキーを膝の上にのせています。その背中はまだ小さくて、言葉をかけるのもためられるくらいです。ラッキーはおじいさんを見ながら、むしゃむしゃと月の草を食べていますが、おじいさんはただラッキーの背中を撫でるだけです。

地球に戻りたくないですか？って聞いたら何も言わずに海の家 of 看板を指差しました。

なるほど、「月の海の家」ですもんね。地球には月の海の家は無いですから、どうしたって月にいなくちゃならないんでしょう。なんとなくその気持ちは分かりますけど。

壁に貼り付けられた古ぼけたお客様の無数の写真、良く見るとここにある有名人の色紙、使い古された長机とサビだらけのパイプ椅子、置きっぱなしの釣竿や埃まみれの空き瓶、そして、レジの奥にあるおばあちゃんの写真。

おじいさんの全てってこの月の海の家なんでしょうね。宝物だ。あと、ラッキーもそうか。月のウサギがいなかったらやっぱり寂しいや。それに、おじいさんがいない月の海の家もやっぱり寂しい。

皆さんも月の海にお越しの際はぜひ、おじいさんに挨拶して下さいね。むすつとしてるようだけど、実は話したがりやですから。きつと美味しいかき氷を作ってくれます。

でも、くれぐれもおばあさんの話はしないように。年寄りの涙は月の海に似合わないですから。泣いちゃうんです、実はね。

では、良い旅を！ おしまい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3089i/>

---

月の海の家

2011年1月21日02時22分発行